

北海道の鉄道存続を求める意見書

11月18日、JR北海道は、現在の営業路線のおよそ半分となる10路線13線区を単独では維持が困難であると発表した。

この路線の廃止となれば、その地域の過疎化に拍車がかかり、地域経済や住民の暮らしに計り知れない打撃を与える。

明治以後、北海道は未開の大地に鉄道が敷かれ、鉄道延長とともに、地域の開拓が進み経済が発展し人々の暮らしが豊かになってきた歴史がある。今日、北海道は日本の食糧生産基地の地位を確立し、その輸送の主役である鉄道の廃止は地方の消滅、北海道そのものの衰退につながることである。

将来に渡り鉄道を残し活用していくことが道民のいのちと暮らしを守り、また観光立国を目指す北海道にとっても、北の大地に大きな可能性を残すことにつながる。

貴職におかれてはJR北海道と国やJR貨物も含めて国防、経済、環境など様々な側面から鉄道存続のため、その中心的役割を果たすよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

平成28年12月16日

北海道美深町議会議長 倉 兼 政 彦

【提出先】

北海道議会議長

北海道知事